

令和5年4月13日 市長定例記者会見 会見録

◆司会

ただいまから難波市長就任に際しての記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

はい。みなさん、こんにちは。難波喬司です。今日初登庁になりました。どうぞよろしくお願いいたします。初めに10分程度私からお話をという予定にしておりますけれども、今日は朝一番、新茶の初取引、お茶の初取引がありましてこれに参加をさせていただいて、これが初めての公務となりました。このお茶の問題についてはですね、これから本当に過去の延長上にはない取組をしていかなないといけないということを実感をしたものでありましたけれども、今日たまたまそういう仕事が、最初の公務になったというのは、何かそのあたりを意味付けがあるなというふうに思っております。これから市長になったわけですが、どういう市長になりたいかということでもありますけれども、これは選挙で選ばれたわけですからこの人を選んで良かったなと思っただけの市長、そして、票は入れなかったけどこの人いい結果を出してくれるよなというふうに思っただけの市長ですね、そういう市長を目指したいと思っています。静岡は本当に面積が広くて、そして標高差も高くて多種多様な暮らし、そして生業、産業、これがあるわけで、非常にたくさんの仕事があります。やらなければいけない課題が山積しているという状況です。そのような中でこれからこの市役所のトップとして、市政のトップとしていい仕事をしていくと。これが私がどうしてもやらないといけない、当然でありますけど、仕事だと思っています。登庁後、職員に対して訓示という形であいさつを兼ねて私はこんなことを考えていますということをお話をしました。これも非常に短い時間でありましたから、もうこれは一言だけですね。温かい市政にしましょうということを申しました。そして、温かい市政にしようと思うとですね、これはまずは職員が今非常に多忙な状況にありますから、そこの多忙な状況を改善をしていく、それによって少し時間的な余裕を持たせて、そして温かい市政、そして結果の出る市政に取り組んでいく。そういうことを申し上げました。とにかくいきなり私が市長になってこれをやるんだと言ってどンドン新しいことをぶち上げて、それで割り振っていくってことをするとそれはもうすでに職員としては仕事量としては限界状態になっていると思いますから、まずは今ある仕事を一回聞かせていただいて、そしてそれはこうこう、こういうことですよということの方角付けをしっかりと仕事効率化を進めていきたい。そのうえで

市民に寄り添う、市民の悩みに寄り添う、そして市民の夢や希望を、こうなったらいいなという所に共感する市政ですね。そういう市政、そういう温かい市政を目指していきたいと思っております。

お手元に資料は3枚、資料1、2、3とありますけども、この資料1というのは、これは選挙前に私はこういう市政を目指していますと、市役所の運営を目指しています、こういう市政が必要ですよということを言ってきたわけですけども、この新しい市政の姿で目指す社会というのは、安心感がある温かい社会ということですね。そして地域づくりの主役は地域の人、社会。そういう所でいろんな活動がされてるわけですから、それに対して市政は社会の大きな力が繋がる、あるいは世界の大きな知が集まり繋がると。そういうことができるようにしていくべきだろうと。その根底にあるのが温かい市政ですね。これをやっていく必要があるというものです。これを踏まえて、ずっと選挙の間もそういう話を言っただけで、今日初登庁をして職員に対してはこの温かい市政にしましょうということを申し上げたと。そんな状況にあります。それから、選挙についてちょっと振り返る必要があると思いますので、資料2というのを用意しております。資料2の中でですね、投票率が低かったというのはこれは私自身も非常に課題だと思っています。それを踏まえてこれからどうしていくのかということを一言だけ、短い時間でお話をしたいと思います。そこに、資料にありますけどもこちらに映してもらったほうがいいかな。映ってますかね。はい、失礼しました。投票者数は26万人あまりですけども、58%の支持を頂いて149,117票を頂きました。これに対して投票率は45.61%でしたので、当日の有権者数を見ると572,764人ですので、私が実際に頂いた票というのは、有権者のうち何%だったかということと26%なんですね。従って有権者の中で私に票を入れてくださった方は26%であるということをもっとよく理解をしておかないといけないと思っています。そして、無投票の方がたくさんおられたわけですから、投票に行かれなかった方がおられたわけですから、それがどういう意味合いがあるのかということもちゃんと理解をしないといけない。そして、他の候補、山田候補と鈴木候補に入れられた方の思いですね、そういった思いをしっかり受け止めてこれから市政運営に反映していく必要があると思っています。私は信頼と共創の市政とずっと言っただけで、共創、共に創るですね、共に創るということは、これは私が頂いた票ではなくてそれ以外の方々も含めてみんなで地域づくりをしていきたいと思います。そういう意味合いで共創を言っておりますので、この26%、私に入れてくださった26%以外の74%のお声、お考えをしっかりと聞くと。そういう市政が必要だというふうに思っています。それで、その裏側になりますけど、どういうふうにするのかということですけども、これはやはり、投票率の向上というのは極めて大事な

ことだと思えます。まあ、投票率の向上というよりもこういう市政への市民参加ですね、これがもっとも高まる必要があると思っています。投票率の低下というのは、もうこれ全国的な傾向です。ですからまずその全国的な傾向、なぜそんなに下がってるのかっていうことをしっかり分析する必要があると思っています。そしてこれは静岡市長選についても、投票率が今回低下したわけで、それは私自身にも責任の一端はあると思えます。そして、諸説あるわけですけれども、全国的な傾向も踏まえてなぜ投票に行かなかったのかということ进行分析をしたうえで今後の対策を検討する必要があると思っています。それで当面ですけど、まずこの二つの取組をしたいと思っています。

一つ目は他の2候補との意見交換についてと。これはお二人の了解が得られればの話ですけれども、お二人ともお二人を応援された方々がいて、そしてお二人自身そういう方々の思いを受けて両候補もいろんな考え、思いを持っておられると思えますから、その両候補のお考えをお聞きして意見交換の場を持たせていただければなと思っています。それからもう一つは、これは投票されなかった方ということですが、今回の投票結果を踏まえてなぜ投票を行わなかったのかを分析するとともに今後の市政において投票を行わなかった方も含めて、市政に対する意見を把握する、これは新たなシステムですね。これを作るための研究会を設置したいと思っています。投票率が下がったことが課題だ、課題だと言っているけれども課題解決にはならないわけで、下がったのはなぜかということ进行分析をしたうえで、じゃあどういうふうにしていったらいいのか。単に投票率を上げるということがその解ではなくて、答えではなくて、やっぱりその投票行かれない方々の声をちゃんとお聞きして市政に反映する仕組みっていうのが非常に大事だなと思っています。とりわけ、まだ選挙結果の投票行動がどういうふうになってるのかは私自身把握はしていませんが、普通に考えると若い世代の方々の投票率が低かったんだろうと思えますが、そういう方々の意見をどのようにお聞きをして、それを市政に反映すると。そういうシステムを作る必要があるのではないかということ強く認識をしてるという状況です。以上予定よりちょっと長くなってしまいましたが、以上と。大体大丈夫ですね。私のお話は以上とさせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

◆司会

それでは記者のみなさんからのご質問をお受けをいたします。質問のある方は挙手のうえ、社名とお名前をおっしゃっていただいてからお願いをいたします。はい、NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。まず、他の二人の候補の方が挙げられて、重視されていた政策事業のほうで難波さんに、これまでも、選挙戦の中でも伺ってまいりましたが、公式の場で改めて伺います。まず、アリーナ、スタジアム、海洋文化施設の三つの大型事業についてはどういうスタンスで臨んでいかれるのかをこの場でもお聞かせください。

◆市長

アリーナ、海洋文化、スタジアムですね。

◆NHK

はい、それぞれについて。

◆市長

はい、わかりました。これは三つとも性格が違うものですから、一律でこうだと言うべき問題ではないと思っています。まずアリーナですけども、これは東静岡が候補地となっているようですけれども、私はこれは誘致案件だと思ってます。誘致案件というのは、これは市が自ら参画、主体となって整備するものではなくて民間事業として行われる、まあ、企業立地と同じという扱いは私は思っています。ただ、できた時の社会への波及効果、経済への波及効果が非常に大きいものですから、それに対して市が何らかの形で下支えするという事はあり得ると思っています。ただし、あくまでこれは誘致案件という扱いだと思っています。次に海洋文化施設については、これはもうすでに契約が行われてる事業ですから、この契約は尊重したいと思っています。ただ、市の負担額が巨額になるわけですので、それについてはもっと圧縮できるんじゃないかと、まあ、私自身がアイデアを持っていますので、そのアイデアをもってこの契約したい事業者といろいろ交渉をしたいと思っています。まずは交渉よりも意見交換ですね。私はこんなことを考えてるんですけど、いかがお考えですかというような形で意見交換をするのが大事かなと思っています。スタジアムについては、これはまだまだ煮詰まってる状況ではありません。現スタジアムの改修なのか別の場所にするのかと、この二つについて今検討がされていますので、まずはその検討結果を待って、その次の段階にいきたいと思っています。ただしですね、聞いたところによると、まだあと1年かけて今の検討を進めるというのを言われてますから、これについては1年もかける理由はちょっと私には見つからないので、これからどこまで今進捗してるかをしっかりお聞きをして短時間で、短期間で結論が出るようにしたいと思っています。その後はそれを踏まえて、

どういふふうにしていくかということを進めていきたいと思ひます。基本的な考へとして、そのスタジアムについても、これはできれば、そこに施設が設置されれば経済波及効果が極めて大きいですから、できるものであれば当然やるべきものだと思ひています。サッカーの街静岡にとつても大変重要な施設だと思ひています。以上を申し上げましたけど、もう一つだけ重要なポイントは、三つのものについてはいわゆる箱物といわれるものですが、箱物についての考へ方は私はもう常に申し上げているんですけども、箱物単体でものを考へては駄目だと。その箱を中心としていかに地域経済効果を高めていくのかというのが大事だといふふうに言つてます。つまり単体ではなくて、まちづくりだとか文化づくりだとか、そういうものに広げていく。そして共創という、共に創るといふことをずっと言つていますが、スタジアムだけではなくて周りの人達がいろいろな思ひだとか行動をされてますから、そういう方々と一緒になつて大きな波及効果を上げていく、そういう施設にする必要があると思ひています。そういう方向から、この三つの施設については私自身はこう考へてますよといふことをお伝えをして話は進めていきたいと思ひています。以上です。

◆NHK

ありがとうございます。アリーナについて補足ですが、環境整備だけでも騒音振動対策、40億円ほど市が拠出しなければならないという数字が出されたこともあります。そして渋滞対策については、ご承知のとおり駐車場がMARK ISぐらいしかありませんので、国道1号線どれだけ渋滞するんだと住民の方、長沼の方は非常に懸念を持っておられます。それでも誘致できるならば進めるべきだといふ考へでいらっしゃるわけですね。

◆市長

そこは誘致案件と言ひましたけども、経済波及効果が大きいかどうかといふところですね。それはまずは市にとつても同じで、市が公的負担をしたことによつてその経済波及効果がいかにあるのかといふところをしっかりと分析をする。つまり、40億か50億かわかりませんが、仮に40億だとすれば、市が40億負担をするだけの経済的な効果があるのかどうか。それをやっぱり社会的な合意形成ですね、これが大事だと思ひています。私がそれでいいと思ふとかいふ話ではなくて、市がそれだけお金をかけてそれだけ効果が得られるんだつたらそういうこともやったほうがいいんじゃないかなと多くの人が思ふようなものであればやる必要があるし、そういう状況にならなかつたらもっと考へ直さないといけないと。そんな段階だと、そういうものだと思ひています。

◆NHK

渋滞や騒音の懸念も、住民の方の懸念、市長ご自身もそうかもしれませんが、その点も乗り越えてやるべきだという？

◆市長

それはまだやってみないとわからないですよ。具体的にどのぐらいの渋滞が起きて騒音が起きるのか、それが受忍限度なのかどうか。じゃあ受忍できればいいというもんでなくてそこまでしてやる必要があるのかどうかというのは、具体的にお示しをして地域の方々の意見を聞いて、丁寧に進める話だと思っています。

◆NHK

ありがとうございます。もう一つだけ伺わせてください。組織運営について、特に区長の在り方について、難波さん問題意識を持ってらっしゃるということを選挙戦でおっしゃってました。これについてどう変えていかれるかお聞かせいただけますか。

◆市長

区長は正直申しますと機能しないというのが私の考えです。機能しないというのは、区長というのはいいいんですけど、区長が権限を持たせてっていうことをすぐ言われるんですけど、区長が権限を持ってもなかなかうまくいかないと思います。それは、静岡市は縦割りの組織がきちりしていますので、その縦割りの組織であり、駿河区であり、清水区であり、そういう所に区長が乗って、でも結局はその縦割りの組織が別途あるわけですね。その上に区長というものがいったときにどういう役割が果たせるのかというと、私の行政経験から言うとなかなかうまくいかない。なかなかうまくいかないというのはその下の組織が言うことを聞いてくれないってことです。従って、区長を置くのであれば、区長がちゃんと機能する区長、機能するというのには区長はしっかりした考え方を持って、こう行こうと言ったらちゃんと組織が動けるようなかたちにしないといけない。そうすると、単なる誰を区長にしたらいいかとか、区長の権限がどうかという、その部分的な問題じゃなくて、市政全体の中でどういうふうな区長のかたちがいいのかというのを考えていく必要があると思っています。

◆NHK

ありがとうございました。

◆司会

読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞社

読売新聞社です。今日の午後竹内知事の所に就任のあいさつに。

◆市長

川勝知事。

◆読売新聞社

あ、すみません。川勝知事の所に就任のあいさつに伺われると思うんですけども、先日田辺前市長がやはり退任のあいさつに伺われたときに、2016年のG3サミットでの川勝知事の、静岡市は政令市の失敗事例であるという発言の撤回を求めて、それに対して川勝知事は応じなかったんですけど、この発言について難波さんはどのような所感というか、感想をお持ちでしょうか。

◆市長

その問題を問題にしても何も新しいことは生まれないので、私は一切言いません。もし知事がおっしゃれば答えますが、それを言ったからといって市が良くなるわけでもないし、県政が良く、県民のためになるわけでもなし、市民のためになるわけでもない。従って、その問題については何も言うつもりはありません。

◆読売新聞社

わかりました。これまで何度も尋ねられてきてると思いますが、改めて川勝知事との関係っていうのは、たしか是々非々というふうにもおっしゃいましたけど、どういうふうにつき合っていこうというふうにお考えでしょうか。

◆市長

ここは県庁所在地なんですね。だから県庁所在地で、ですから、そういう点でこの市政はやっぱり県全体にも何らかの影響をするわけですね。そして、県がやってることっていうのは市にとっても非常に重要な関係があるわけで、それについていい関係で仕事をしていく必要があると思っています。これは知事と市長の問題ではなくて、県政と市政がいかに連携をしていくかということが大事だと思っています。あまり観念的なことを言ってもわかりにくいと思いますので、例えばスタートアップですね。ベンチャーだとかいろいろ言い方はありますけど、スタートアップのみなさん、新しい技術であるとか、知識を

持って何か社会的な課題解決のために取り組もうと思っていられる方々が世の中にはいっぱいおられるわけですが、これについて県がSHIPっていうのを作ったんですね。組織が作ったわけですが、それはそういう方々が集まる拠点を作ったんですね。その時に、いや、県がそういうものを作ったんだったら、市も、じゃあ、同じようなものとか別のものを別の場所に作りましょうという話ではなくて、県がそういうものを作ってあるのであればそれを市は100%利用させていただければいいわけですよ。それがいい県と市の連携関係の事例だと思います。妙になんかこっち側やる、こっち側やるということではなくて、いい連携関係が必要だなと思ってます。

◆読売新聞社

ありがとうございました。

◆司会

はい、その他。テレビ静岡さん、お願いいたします。

◆テレビ静岡

テレビ静岡です。よろしくお願いします。リニアの問題についてお聞きします。まず、県と大井川流域の市町において田代ダム案ですとか、ボーリング調査などにおいて一部足並みがそろっていないように受け取れるところもあるんですけども、副知事時代、また県庁時代、陣頭指揮を執ってこられた難波さんが市長になられたということで、今後静岡市としてどのような役割を果たしていくか。一部では利水協入りの意向との報道もありましたけれども、そのあたりのを教えてください。

◆市長

足並みがそろっていないというのはその流域の市長の間で足並みがそろっていないのか、県と市町も含めてということでしょうか。

◆テレビ静岡

どちらかというと県と流域市町。

◆市長

市町？

◆テレビ静岡

はい。

◆市長

市町との関係ということですね。まずはですね、流域という面ですと静岡市も流域なんですね。ですから大井川の流域で市町が作っておられるものに参加をしていないというのは、普通に考えると変だなと思いますので、そういう面からいっても当然そこには加わるべきだと思っています。どういう立場で加わるかというのは、これから検討が必要ではあると思いますが、整理が必要だとは思いますが、加わらないという選択はない。加わるしかないと思っています。もう一つは県との関係ですけども、これは科学的根拠に基づいてしっかりとした議論が行われるべきですのでこれについては私自身もずっと携わってきて、科学的根拠については自分自身で考えてものを言えるという状況にありますから、それは市長として言うのか、有識者としてといいますか、そういうものとして言うのかはありますけども、今は市長という立場ですから何を言っても結局は市長としてということしかないと思いますから、市長ではあるけれども自らの考えでもって環境影響評価はこうあるべきであって、今の状況はこうこう、こうなっててっていうことを自分で考えて、それを社会に発信する。この静岡市民の皆さんだけではなくて社会全体に今私はこう考えてますということ発信するべきではないかなと思っています。その関係で県とは、県がどうしてお考えかというのが同じであれば、同じ見解になるし、見解が違えば違うということになると思います。あくまで私の考えでしっかり見ますので、もちろん考えが違うということはあると思います。

◆テレビ静岡

すみません、もう一点だけ。今のその難波さんが県を退任されてからJR東海と県との間で対話が続いていますけれども、先ほどおっしゃられた科学的、工学的な議論というのは県のほうから発信する内容において科学的、工学的であると思われませんか。

◆市長

残念ながら最近そのところをしっかりと、生の書類でもって分析していないんですね。私はこういう科学的根拠に基づく議論というので、一番大事にしているのは実際のものを見て判断するということですね。JR東海が出した資料があれば、そのJR東海が出した資料を読んで、それをどう思うかということですが私としては見解を、今までもそうですけど出してきました。で、残念ながら

今離れていまして、そして政治活動、選挙期間でなかなか時間は取れていませんでしたので、報道される情報をもとに今聞いているだけです。その報道されている情報がどのぐらいJR東海のもともとの、あるいは県の発言と同じものかどうかというのを確認できないのであまり今軽々に言わないほうがいいかなと思っています。ただしですね、印象だけ申し上げますと、つまり報道されている、私が今持っているのは報道されてる情報ですので、報道されてる情報だけを見るとやはり科学的根拠に基づいたところは少し弱いのではないかなという印象は受けています。

◆司会

その他、いかがでしょうか。朝日新聞さん、お願いいたします。

◆朝日新聞

朝日新聞と申します。よろしくお願ひいたします。

◆市長

よろしくお願ひします。

◆朝日新聞

清水市との関係なんですが。あ、旧清水市ですね。今年で合併ちょうど20年っていう節目の年なんですけども、清水区民の間にはいまだに不平等な部分が多いというふうな切ない声がよく耳にいたします。その対清水というところでどんなふうな対処を重点において対処されるのかっていうのを一点お聞きしたいんですけども。

◆市長

はい。葵区、駿河区、清水区、三つがうまく連携をして全体として力を高めていくっていうのが、これが一番基本だと思っています。結構私もよくすぐにデータを出しますけども、データとして申し上げますと2010から2020、手元がないので不正確になるかもしれませんが、清水区は人口が6%ぐらい減ってるんですね。で、葵と駿河はそれほどでもない、2%弱だったのではないかなと思います。データを使いながらと言っているながら曖昧な数字になりますけど、大体の大きさで見ていただいて、清水区は6%ぐらい人口が減って、葵と駿河は1、2%という、それが実態です。それは健全な私たちではないと思っています。だから清水区がその合併によって割を食ったとかいろんな表現はありますが、そういう問題ではなくて、現にデータとして清水区が人口

が大きく減っていて自然体の活力の面で課題になっているというのが事実ですから、それを踏まえて対応をしていく、社会課題を解決していくということが今一番求められているのではないかなと思っています。

◆朝日新聞

ありがとうございます。あともう一点なんですが、清水区役所、清水庁舎の方で執務を取られるとか、こういうふうなプランっていうのはございますでしょうか。

◆市長

これはこれから調整ですけども、私自身は行ったほうがいいかなと思ってます。経済局があちらにあってですね、で、これから大事なのはやはり静岡の人口減少してる大きな原因は、経済の活性化の部分ですね。雇用の求心力がないということと子育て、教育環境のこの両面だと思いますけども、まずは経済活性化のところをしっかりとやっていかないといけない。それはやってるのは清水の庁舎の中にあるわけですから。こちらにいて清水庁舎の皆さんとってというのはありますけど、出向いて行って皆さんと一緒に話をしていくというのも大事じゃないかなと思いますね。こっちに来て、っていても人数限られますからね。私一人行けばいいですから時々清水庁舎に行って、あるいは教育問題についてもそうですけども、清水庁舎におられる方と直にお話をすると。私が出向いて直にお話をするというのほうがいいかなと思ってますね。従って、できたら清水庁舎にも定期的に行くというような状態を作れたらいいかなと思ってますが、これはまだ、何せ今日初日ですから、その部分まで踏み込むわけにはいきませんので、思いとしてはあるというご理解をいただければと思います。

◆朝日新聞

ありがとうございました。

◆司会

それでは予定の11時を越えましたので、以上で会見を終了させていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

◆市長

ありがとうございました。